

序

2004年に刊行された「正常画像と並べてわかる頭部CT」は、本シリーズの創案・企画者でもある藤原卓哉先生の筆になるもので、画像解剖と疾患の画像所見を同時に参照できる他にはない特徴を備え、長年にわたって多くの読者に親しまれた好著でした。改訂版が期待されていましたが、藤原先生の御都合がつかないため、筆者がその意を汲みつつ新たに書き下ろしたのが本書です。前書の特色はそのままに、画像をすべて新しいものとすると同時に、写真の配列も疾患分類別としてより使いやすいものとなりました。

一人で当直しているとき、あるいは周囲に相談する専門家もいないような環境で、とにかく頭部CTを診断しなくてはならないという状況は少なくありません。そんなとき求められることは、学問的な厳密さはさておき、まずは当たらずといえども遠からずの診断ができること、そして治療方針や予後を左右するような重大な見落としをしないことでしょう。本書はこのような臨床の第一線で活躍する先生方に活用していただくことを念頭に置き、緊急を要する脳血管障害、外傷はもちろん、CTで特徴的な所見が認められ、CTが重要な役割を果たす疾患をできる限り多くとりあげました。また、頭蓋内疾患のみならず、画像解剖が複雑

で診断が難しいとされる頭頸部疾患の読影に迫られる場合も多いことを考え、前書にも増して耳鼻科領域の頭頸部疾患を充実させました。

巻頭には、CT読影の基本とともに、「見落としやすい病変」の項を設けました（序章-03）。頭部CT診断で経験される重大な見落とし例の大部分はこの中に含まれるはずで
す。前書同様、本書が多くの先生方のお役にたつことを願っています。

2010年7月

百島祐貴